

福井工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	国語 I (F2)	
科目基礎情報							
科目番号	0042		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	1年混合学級 (一般教育科目)		対象学年		1		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	『現代の国語』『言語文化』(大修館書店)『トータルサポート 新国語便覧』(大修館書店)『体系古典文法』(数研出版)						
担当教員	松山 哲士						
到達目標							
(1) 評論・小説・古文・漢文を的確に読み取り、何がどのように書かれているかを説明できる。 (2) 書かれている内容について理解したうえで、自分の意見を理由を挙げて述べることができる。 (3) 他者の文章の背景となる知識や考え方を的確にとらえ、理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目 1	評論・小説・古文・漢文を的確に読み取り、何がどのように書かれているかをわかりやすく説明できる。		評論・小説・古文・漢文を読み取り、何がどのように書かれているかを指摘できる。		評論・小説・古文・漢文を的確に読み取れず、何がどのように書かれているかを理解できない。		
評価項目 2	書かれている内容について理解したうえで、自分の意見を理由を挙げて述べることができる。		書かれている内容について理解しており、自分の意見を述べようとしているが、なぜそう考えたか説明性に欠ける。		書かれている内容について理解できず、自分の意見を持つことができない。		
評価項目 3	他者の文章の背景となる知識や考え方を的確にとらえ、理解しようとしている。		他者の文章の背景となる知識や考え方があることについて気づき、興味関心を持っている。		他者の文章の背景となる知識や考え方をとらえることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 RC2							
教育方法等							
概要	この授業では、基本的な評論・小説・古文・漢文を分析的に読み取り、自らの知識や思考を深めていくことを目的とする。また、筆者／作者が何をどのように表現しているかを知り、自分がどのように表現すれば伝わる文章を作成できるのかを考え、身につける。さらに、他						

		4週	小説「セメント樽の中の手紙」(1)	プロレタリア文学について理解し、作品に興味関心を持つ。
		5週	小説「セメント樽の中の手紙」(2)	時代背景を意識しながら、主人公の立場を理解する。
		6週	小説「セメント樽の中の手紙」(3)	主人公の立場を意識しながら、女工の手紙の内容を理解する。
		7週	小説「セメント樽の中の手紙」(4)	物語の内容を理解したうえで、自分の意見を理由を挙げて書く。
		8週	中間試験	これまでの授業の内容を理解しているか、記述を中心とした問題に取り組む。
	4thQ	9週	中間試験解説	これまでの学習を振り返り、今後の課題をつかむ。
		10週	古文「芥川」(1)	本文を正しく音読し、重要語句や文法に注意して現代語訳できる。
		11週	古文「芥川」(2)	物語や和歌の内容を説明できる。
		12週	古文「芥川」(3)	物語の内容を理解したうえで、その面白さを説明できる。
		13週	漢文「雑説」(1)	本文を正しく音読し、重要語句や文法に注意して現代語訳できる。
		14週	漢文「雑説」(2)	当時の時代背景を意識したうえで、説話の内容を説明できる。
		15週	漢文「雑説」(3)	説話の内容を理解したうえで、その面白さを説明できる。
		16週	期末試験解説	これまでの学習を振り返り、今後の課題をつかむ。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	前2,前3,後1,後2,後3,後13,後14,後15
			論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	前2,前3,後1,後2,後3
			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	前4,前5,前6,前7,前11,前12,前14,前15,後4,後5,後6,後7,後10,後11,後12
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前2,前3,後1,後2,後3
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前4,前5,前6,前7,前14,前15,後4,後5,後6,後7
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前3,前7,前12,前15,後3,後7,後12,後15
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前3,前7,前12,前15,後3,後7,後12,後15
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前3,前7,前12,前15,後3,後7,後12,後15
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	前3,前7,前12,前15,後3,後7,後12,後15

評価割合

	中間試験	期末試験	小レポート	発表	合計
総合評価割合	35	35	20	10	100
基礎的能力	35	35	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0